

自立活動 学習指導案

- 1 単元名
「ただ今 これに夢中です」
- 2 生徒の実態及び、単元設定の理由

生徒の実態を把握するにあたって、ソーシャルスキルに関わるアンケートを利用して、本人が自分自身をどのように捉えているのか、また周囲はどう捉えているかを比較した。双方の結果やそれらの比較による差から、生徒の実態把握をより正確に捉えると同時に、今後の指導方法やアプローチの仕方に活かそうと考えた。これらのアンケート結果からA・B共に以下の3点が困り感として明確になった。

(1) 他の人との社会的関係 (2) 適切なコミュニケーション力 (3) 想像力と創造性

- (1) は、他の人に対する振る舞い方・表現方法
(2) は、自分の思っていることを相手に伝える方法・相手の言いたいことの捉え方
(3) は、変更の受け入れ（切り替え）・状況に合わせた言動の変更

小学校では、生徒A・B共に通常の学級で過ごしてきた。

生徒Aは、小学校では自分の興味関心を最優先させることが多く、意欲にムラが見られた。また、未経験の活動には不安を抱いたり、面倒であるというイメージが先行したりする結果、参加拒否（逃避）をしてきた経緯がある。周囲からの声かけに対しても、耳を傾けようとはせず、強い態度で拒否する言動が見られ、関係を悪化させることがあった。中学入学後は、活動に対して、事前に画像を見る・直接視察をすることを通して、見通しをもったり、活動内容に選択肢を設け、自己選択したものをやりきったりすることにつながった。それにより、活動への参加や、活動をやりきることが徐々に増えてきた。

生徒Bは、小学校では通常の学級での学習や生活の中で活動をやりきれない、できないまま次の課題へ進むという経験の積み重ねによって、「自分はできない」という思いが強い。また、できない（分らない）状況になった時にその場に固まってしまうが、そのような状況で、他者からの支援を受け入れず、反論したり泣き喚いたりすることがある。一方で、好きな活動には参加するが、やりたくない活動に対しては、「できない」と主張し、活動に参加しようとしないこともある。そこで、自分ができないことを相手に伝える方法を知って問題を回避したり、選択肢の中から自分ができると思うことに取り組み、解決できたことを即時評価される経験を繰り返すことで、課題へ取り組む意欲につながってきた。

両者に共通することは、成功体験が少ないため自己を肯定的にとらえにくいことと、相手の感情や意図の理解や自己の理解が難しいことである。自分の得意や不得意なこと、苦手な場面や状況を理解していないこと、仲間の言葉や行動から相手の考えを推測するのが苦手であることから、仲間の行動に対して適切に応じることができず、結果として自分自身が困っていることに気付いていない。

そこでまずは、生徒がができそうな活動を設定してできた喜びや成就感を繰り返し味わう経験し、教師や仲間から自分のよいところや頑張っている姿を聞くことで、一人一人の自己肯定感を育んでいきたい。そして徐々に自信を回復しながら、自分のできることやできないことを受け止めていけるようにする。その上で自分ができているのかどうかを自己評価し、教師や仲間の評価との共通点や違いに気付くことで自分自身を振り返る目を養う。そして自分でできること、補助的な手段を活用すればできること、他の人に依頼すればできることなどを理解して、自分で問題を解決するための適切な方法を選ぶことができるようにしたい。

また、二人とも興味関心のあることに関して尋ねられると、豊富な情報を提供できる。生徒Aはゲーム、生徒Bはアイドルグループというそれぞれが興味関心のあるもの（夢中になっていること）を

題材として取り上げることで、自信を持って相手に伝えられるようにしたい。パソコンのスライドプレゼンテーションソフトを活用しながら相手が分かりやすいようにと意識した発表をし、その後仲間や教師から質問を受ける活動を設定することです。相手を意識しながら状況によって対応できる力を育んでいきたい。

***自立活動 項目選定 資料2**

3 本時の目標（１）及び評価規準（２）

生徒A

- （１）初対面の人に対しても自分が夢中になっていることを落ち着いて伝え、質問を聞いて答えることができる。**【2-(2)、3-(2)】**
- （２）初対面の人に対してパソコンを活用して自分が夢中になっていることを発表し、初対面の人からの質問を聞いて自分で答えを考え、返答する。

生徒B

- （１）お客様から自分に対する評価を聞くことで、お客様が自分の発表をどのように見ていたかを知り、自己の理解を深めることができる。**【3-(3)、6-(5)】**
- （２）板書に示された評価表やお客様の話から、自己評価とお客様の評価を比較し、共通点と相違点を見付けている。

4 本時の展開

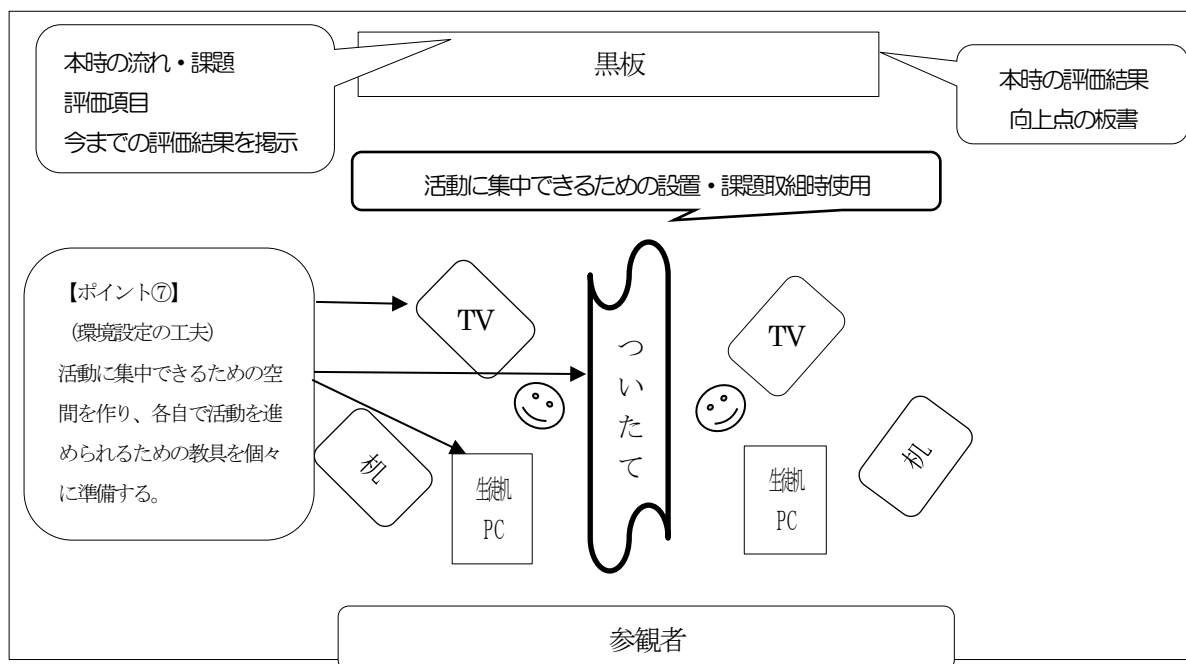
過程	活動の流れ	指導援助「・」 評価規準「☆」	
		A	B
見通しを持つ	「ただ今これに夢中です」		
	○ペアで棒つかみゲームをする。 ○課題の確認をする	・ゲームのやり方が分かるように、Bと教師とでやってみせる。 ・互いに声を掛け合ったり、互いの動きに注目したりすることで棒をつかみやすいことを確認する。 ・板書で活動の流れを確認する。 ・評価表の項目を示し、話し方・伝え方のポイントについて自分の頑張りたいことを確認する。 初めて会ったお客様に自分が今夢中になっていることを発表し、質問に答えよう。	・「無言/言葉を掛け合う」パターンを変えて、結果の違いをつかませる。 ・互いに声を掛け合ったり、互いの動きに注目したりすることで棒をつかみやすいことを確認する。 ・板書で活動の流れを確認する。 ・今までの評価表を確認し、話し方・伝え方についての自分の課題を振り返る。 先生や仲間の感想を聞いて、自分の振り返りと同じところや違うところをみつけよう。
活動に取り組む	課題に取り組む part1～練習～ ○話し方・伝え方のポイントに気をつけて話す練習をする。 ○タブレットを活用して各自練習している姿を録画する。 ○改善点を練習する。	・ついたてを置き、Bの行動を見えないようにする。 ・タブレットに録画したAの姿を一緒に見て、できているところや改善点を確認する。 ・改善点を知って練習する姿を認め、励ます。	・ついたてを置き、Aの行動を見えないようにする。 ・タブレットに録画した自分の姿を見て、できているところや改善点を自分で見付けたことを価値付ける。 ・改善点を自分で意識して練習している姿を認め、励ます。
	課題に取り組む part2～本番～ ○相手の反応を意識しながら、自分が今夢中になっているものを伝えたり、相手からの質問に答えたりする。 ○タブレットを活用して各自発表している姿を録画する。	・緊張してきた時に気持ちを落ち着ける方法（深呼吸など）を事前に確認する。 ・お客様からの質問に答えられず困った時の対応の仕方（ヘルプカードを見せるなど）を事前に確認しておく。 ☆初対面の人に対してパソコンを活用して自分が夢中になっていることを発表し、初対面の人からの質問を聞いて自分で答えを考え、返答する。	・お客様からの質問に答えられず困った時の対応の仕方（文例をヘルプカードを見せるなど）を事前に確認しておく。 ・タブレットに録画した姿を見る前に、評価表の観点及び練習での改善点を確認する。
振り返る	○自己評価をする。 ○お客様からの評価を聞く。 ○今までの評価と、今回の評価から、自分が良くなってきている面について見つけ、発表する。	・初対面の人の前で発表できたこと、質問に答えられず困った時の対応の仕方を活用できたことを価値付ける。	・板書に自己評価やお客様の評価を並べて示し、視覚的に双方の結果を比較しやすいようにする。 ☆板書に示された評価表やお客様の話から、自己評価とお客様の評価を比較し、共通点と相違点を見付けている。

【ポイント①】
(課題に必然性をもたせる工夫)
前時までの自己評価や教師や仲間からの結果を示し、自分の課題を再確認して、本時の課題につなげる。

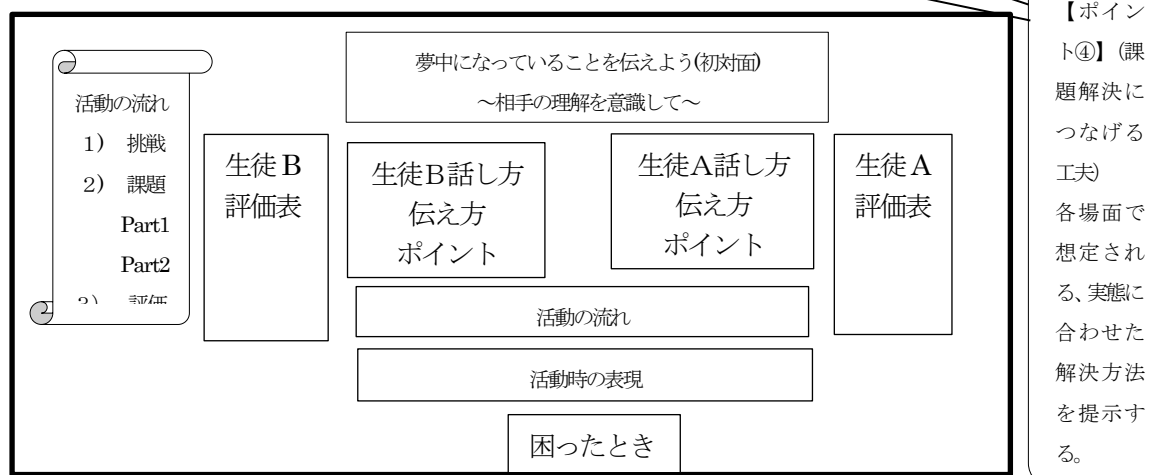
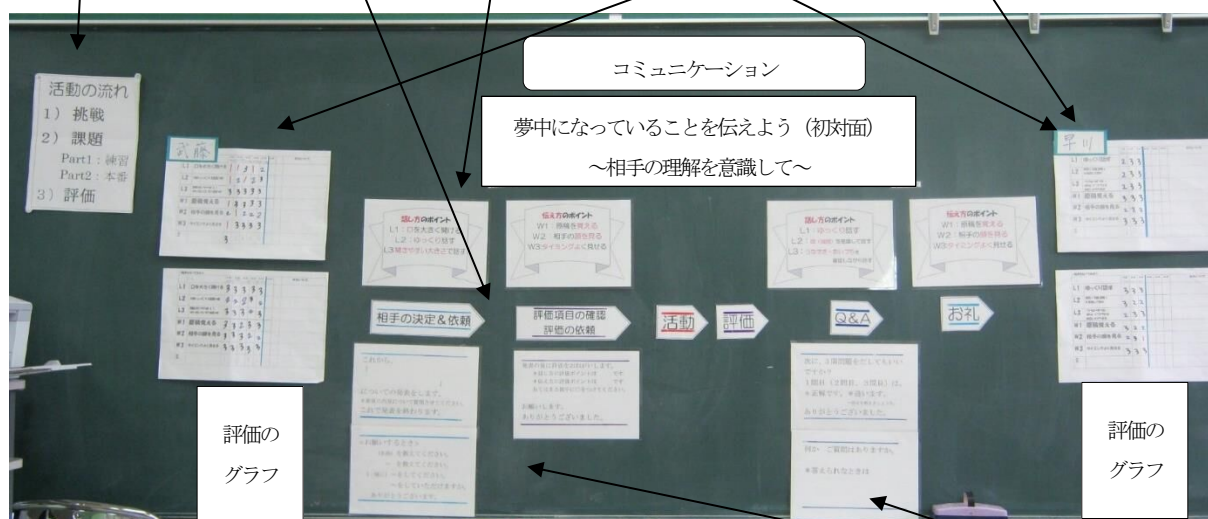
【ポイント②】
(適切な自己評価につなげる工夫)
タブレットを活用して、録画した自分の姿を見ることで、生徒が自分の姿を客観的にとらえられるようにする。

【ポイント③】
(適切な自己評価につなげる工夫)
お客様からの評価を聞く活動を位置付け、自己評価と比較することで、お客様から見た自分の姿を知り、自己理解を深めることができる。

6 環境設定図



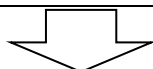
【ポイント⑧】(活動の見通しをもたせる工夫)
1時間の活動の流れ、課題解決における活動の流れ、個々の課題、評価を構造的に位置づける。振り返りを数値やグラフ化で示すことで、視覚的に捉えられるようにする。



資料 2

生徒 B

実 態 把 握	・歯磨きや洗顔、洗髪等をしないことがあり、衛生面への意識が低い。 ・経験したことは自分からやろうとすることもありますが、成功体験が少ないため、多くの活動においてやる前から「できない」と思い込み、行動するまでに時間を要する。 ・日常的に、吃音が見られる。気持ちの高揚により顕著になる。 ・仲間と関わりたいという思いはあり、慣れてくると相手に関心を示したり、依存したりする傾向が強くなる。困った時に母親へ助けを求めることはできるが、自分でできることでもすぐに母親へ頼ろうとする。 ・感情が高揚すると状況把握ができず、言動をコントロールすることが難しいため、自分の主張ばかりを通そうとしたり、反抗的な態度を見せたりする。感情のまま相手に言葉を発して、仲間との関係悪化につながることもある。 ・ホックやボタンかけなどの細かい手作業が苦手で、時間を要したり、正しくできなかったりする。 ・聴覚から得た情報を理解することが苦手であり、視覚的な情報を提示した方が理解しやすい。在籍学級では自分の意見を言えるが、交流学級等の集団の中では恥ずかしさや表現方法が分からないことから、要求を伝えたり、意見を述べたりすることが苦手である。
------------------	---



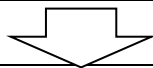
1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
・衛生面への意識が低く、衛生管理に関わって身辺自立ができていない面がある。	・成功体験が少なく、「できない」という思い込みから、行動するまでに時間がかかる。 ・感情の高揚によって、吃音がより顕著になる。	・仲間と関わりたいという思いはある。慣れてくると相手に関心を示したり、依存したりする。 ・困った時に母親へ助けを求めることはできるが、自分でできることでもすぐに母親へ頼ろうとする。 ・感情が高揚すると、状況把握ができず、言動をコントロールすることが難しい。	・聴覚から得た情報を理解することが苦手であり、視覚的な情報を提示した方が理解しやすい。	・指先の作業が苦手で時間を要する。	・集団の中では、恥ずかしさや表現方法がわからないことから、要求を伝えたり、意見を述べたりすることが苦手である。

幾つかの指導目標の中で優先する目標として



指導目標	自分の得意なことや不得意なこと、苦手な場面や状況を理解し、集団の中で状況に応じた対応ができる。
------	---

指導目標を達成するために必要項目の選定



選定された項目	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	6 コミュニケーション
	(2) 状況の理解と変化への対応に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改・克服する意欲に関すること	(1) 他者とののかかわりの基礎に関すること (2) 他者の意図や感情の理解に関すること (3) 自己の理解と行動の調整に関すること (4) 集団への参加の基礎に関すること	(2) 感覚や認知の特性への対応に関すること	(2) 言語の受容と表出に関すること (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

選定された項目の関連付け具体的な指導内容を設定

具体的な指導内容	・Aさんができそうな活動を設定し、できた喜びや成就感を繰り返し味わう経験をすることで、自分に自信をもつ。 ・教師や仲間から自分のよいところや頑張ったことを聞くことで、自分に自信をもつ。	・記憶媒体を使って、自分の姿を客観的に捉える。 ・自己評価を学習プリントに書く活動を通して、本時の自分の目標を意識して自分の姿を振り返る。	・黒板に提示された教師や仲間からの自分に対する評価を見ることで、自己評価との共通点や違いに気付く。
----------	---	--	---